

教育目標：よく考え 進んで学ぶ子  
正しく判断し 行動できる子

自分も友だちも大切にする子  
体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

# 高松

令和5年11月1日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011

立川市高松町1丁目12番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <https://www.tachikawa-edu.jp/es05/>



## 競い合い、励まし合い

副校長 上野 徹

運動会という行事の大きな特徴は、同じ学年やクラスの仲間との「競争（走）」と「協力」、相反する2つのことに取り組むところにあります。先週、絶好の天気の下で実施した本校の運動会では、随所に競い合い、励まし合う姿が見られました。

まずは「競争（走）」。短距離走と選抜リレーでは、一人一人がベストを尽くしました。スタートの合図に集中する子、自分のコース内からはみ出さないように意識する子、スピードを保ったまま工夫してカーブを回る子、ただひたすら懸命にゴールを目指す子。そしてゴールを過ぎた瞬間の喜びや悔しさ、安堵など、様々な表情が印象的でした。

そして「協力」といえば各学年の表現種目。1年生はボールを使って、ドリブルやパス、投げ上げるボールの高さまでそろそろように練習を重ねました。カラフルな傘をタイミングよく開閉し、時にはミュージカルスターのようなポーズも入れて踊った2年生。3年生は日本伝統の拍に合わせて花笠をダイナミックに動かし、「やっしょー、まかしょ！」の声も息がぴったりでした。短なわの動きだけでなく、掛け声にも徹底的にこだわって会場全体を盛り上げた4年生は、まさに「IDOL」。仲間との絆をテーマに自主練習も重ねた5年生は、毎日手を重ね、足を持ち上げながら技の精度を高めました。そして小学校生活最後の運動会になった6年生。体やフラッグの動きだけでなく、行進やフラッグをはためかせる時の音までも一つにそろえる勇姿は、さすが最高学年。

もう一つは「尽力」。応援団や選抜リレー、そして各種の係活動において、5・6年生が力を発揮しました。高学年の働きなくして運動会の成功はありません。第五小学校・運動会のよき伝統として、来年度の高学年児童が引き継いでくれることを期待しています。

「相手がいるから競い合える。仲間がいるから励まし合える。」私がお世話になったチームの監督の口癖でした。約1か月間の運動会の取組を通して、どの学年の子どもたちも心が通じ合う経験ができたことと思います。学校ではその経験を糧に、今後の教育活動に生かしていきます。保護者の皆様におかれましては、ここで紹介したこと以外にも、お子さんの様々な活躍を参観されたことと存じます。ぜひ、各ご家庭で価値付け、大いに称賛していただければ幸いです。

最後に一つ、お礼とお願いになります。今回の運動会は、本校の環境が新しくなった中で初めて実施しました。そして、運営面においても、各種目参観時の譲り合いにおいても、保護者の皆様のご理解とご協力をいただいたことにより、無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。もし、お気付きの点があれば感想とともにお寄せいただくよう、お願いいたします。

(運動会の感想は、フォームスにて受付するよう別途案内をさせていただきます。)

